

～まちづくりファシリテーションステップアップ講座～

日時 平成27年10月4日 13:00～17:00

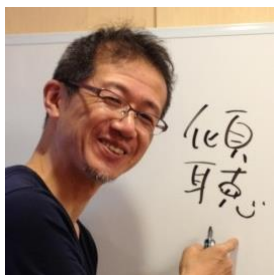
場所 名古屋都市センター 11階ホール

■ 講座概要

実際にまちづくり活動に取り組まれている方を対象に、まちづくりの合意形成に用いられるアイスブレイクやファシリテーショングラフィックなどの現場で使える手法を学ぶ、スキルアップを目的とした講座を開催しました。

講師は平成23・24年度に地域の“まちづくりびと”養成講座 入門編でお馴染みのまち楽房有限会社 代表取締役の加藤武志さんを迎え、9名が受講しました。

■ 講師紹介



加藤 武志 さん

まち楽房有限会社 代表取締役、中京大学 現代社会学部 講師
地域づくり、住民参加及び協働の仕組みづくり、組織の活性化など、対話を通して人と人の関係を築きながら、自分たち自身の手で創造的に課題を解決し、未来を拓く「まちづくり(ソーシャル・デザイン)」に取り組んでいます。

■ アイスブレイク／あなたもアイスブレイカー

最初は講座では受講生と講師が円形に配置された席に座りました。

講師から、席のレイアウトによって場の雰囲気や発言等の成果が変わり、円になって座ると立場が平等となり一体感を生む効果があると伝えられました。

まずは緊張を解くために行われる手法である様々なアイスブレイクからスタートしました。

「クイックチェック」

これは受講生の現在の状態を知ることができるアイスブレイクです。講師からの質問に受講生は親指を上、下、横に傾けて表すことにより、Yes、No、どちらでもないなどの回答を全員で共有でき、受講生の気分がほぐれました。

「バースデーリング」

受講生同士が誕生日を言い合いながら、順番で並んだと確認できた人から着席していきました。これによって場の雰囲気が和みながら受講生の座っていた場所が入れ替わりました。

「キャッチ」

2人1組になり、右手は人差し指を立てる、左手は軽く握って輪をつくり、互いに相手の左手の輪に自分の右手の人差し指を通します。講師の合図で自分の人差し指は素早く逃げて、相手の人差し指を捕まえるというものでした。シンプルですがやってみると難しく、それとともに会場がとても賑やかになりました。



「当たり前を逆手にとったワーク」

2人1組になった受講生同士でじゃんけんをします。次に講師から、じゃんけんの勝ち負けを問われ返事の小さかったほうが罰ゲームとして相手の肩たたきをするというゲームを行いました。このゲームを繰り返すと自然に声が大きくなり、参加のスイッチを“オン”にする効果があります。



「似顔絵を描こう」

2人1組になった受講生同士で相手の名札に相手の似顔絵を描きました。相手の顔をコミカルに描いたり、リアルに描いていたり個性豊かでした。

「話を聴いてみよう」

2分間相手の自己紹介を聴き、その後1分間で相手の話したことを要約するワークを行いました。これは傾聴をうながす練習で、相手のことをどれだけ聴いていたか、覚えていたかを実感できるワークでした。

講師からこれらのアイスブレイクの効果として、2人1組で行うアイスブレイクは少人数で細分化されることにより、場をなごませやすくすることや、似顔絵を描くなど一緒に汗をかくことで、協働でグループワークを進めていくきっかけとなることが伝えられました。

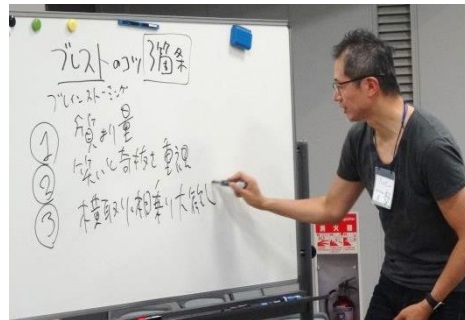


■ アイデアを集めるグループワーク／KJ法

アイスブレイクで場の雰囲気や和んだ状態でグループ分けのワークがはじまりました。

手でアクションをつけながら2つの言葉を交互に言い、同じ言葉を言った者同士が同じグループとして分かれました。この際に自分はどちらの「グループだったのか？」ということをおぼろげに忘れてしまう方もいましたが、言葉とアクションから思い出し自発的に動くことが大切と講師から伝えられました。

グループになって集まり簡単に自己紹介を行った後、「秋といえば？」というお題で3分間のブレインストーミングを行いました。各グループで意見が出されたあと、講師よりブレインストーミングのコツ3箇条「質より量」「笑いや奇抜さを重視」「横取り相乗り大歓迎」が示されました。



次はKJ法を用いて「話し合いを進めるうえで、困ったこと・不安なこと」をテーマにグループで意見を出し合いました。ふせんにお題を書くことにより数多くの意見が出されました。意見をみんなで共有し、内容や系統が同じ意見などを分類し、意見を要約し見出しを書いていきました。その後、グループの代表者からグループワークの結果が発表されました。



講師からは、分類の見出しは目にとり興味をそそる見出しにすると関心を持ってもらいやすいこと、発表の際はコメントが分かりやすくすることが大切であると伝えられました。各グループとも分類ごとの見出しや発表者の伝え方が分かりやすかったと好評でした。

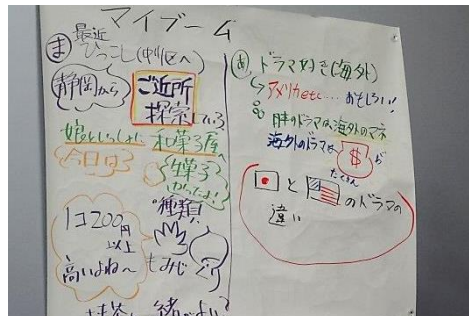
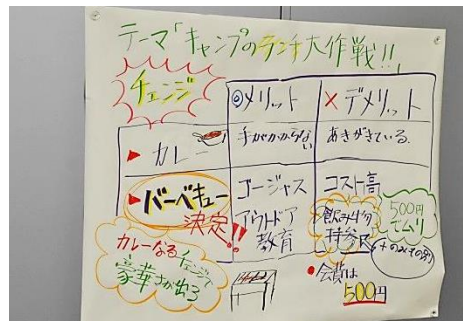
■プチ講座「会議を見える化～FG入門」

会議の発言を分かりやすく可視化し、模造紙にまとめる「ファシリテーショングラフィック」の基礎について、ペンと紙を使用して実際に練習しました。線の太さや色の特性を活かした使い分け、文字を強調する方法、図示してイメージをしやすくするアイコンなど、詳細な指導がありました。



■実践「やってみよう！グラフィッカー」

ファシリテーショングラフィックの実践として、2人1組のグループになり、実際の会話を聴いて模造紙にまとめる体験を行いました。まずは、講師が読み上げた「キャンプのランチ大作戦」についての会話をまとめました。次に、受講生同士で「マイブーム」についての会話を聞き取りながらまとめていきました。受講生はファシリテーショングラフィックの基礎で練習したことを踏まえ、各々で会話の内容が分かりやすく伝えられるように工夫されていました。



■ ふりかえり～まとめ

アイズブレイクやファシリテーショングラフィックについての資料が配布され、講座のふりかえりをしました。

ファシリテーションを活用したまちづくりの事例について、講師が関わっていた自治体のまちづくり構想や建築について紹介されました。

そして、ファシリテーションを行う当事者が気をつける4つの事柄を挙げられました。1つは「場をつくる」。円になったり、グループになったり、座り方が変わっていたり、音楽が流れたりすることで、場の雰囲気を変え、話合いの成果が変わってくるということです。

2つは「引き出す」。傾聴や結論から理由を簡潔に分かりやすく伝える話し方などが必要であるということです。

3つめは「まとめる」。KJ法などで意見を整理することです。本来の課題解決ワークショップでは意見を出したあとにみんなの合意を得られる答えにまとめていくという重要な部分で、3つめをいかに上手に進めるかによって、1つめ2つめがよかったと思ってもらい納得が得られる結論となるかが決まってくるということです。

4つめの「分かちあう」。決めたことを共有し、分かち合うというものです。

また、合意形成で大切にしたいことやよりよい話合いにするための約束、会議進行のコツも学びました。

最後に講師から「ファシリテーターは技術も必要ですが、一番大切なのは気持ちです。同じ技術を持っていても、どのような気持ちで接するかによって変わってくる」と受講生に伝えられ、講座を終了しました。

